

園長だより

No.8 R8.6.15 (Mon)

ある日の、さくら組の女の子同士の会話です。

Aちゃん「大人になったらプリキョウになりたい。」

Bちゃん「そうか〜大人になったら、プリキョウは、もうおはあちゃんに
ごくごく自然に なってると思うんだけど……。」

Aちゃん「え……。」 **呆然**

年中という年代に持つ希望、それに対する素直な判断。
どちらも、この時期特有の子どもの心、真、すぐさだと思うんです。
純心だからこそその呆然としてしまう反応。だからといって決して友達を
非難し強引に主張するわけではなく、時系列を含んで自身の想いを
諭すBちゃん。穏やかに和やかに会話出来るこの二人も、とても
素敵だと思ったんです。

この年頃、てきと夢と現実の狭間で戸惑ったり、
現実を知って 衝撃を受けたり、そんなこと
たくさんあるんだろ〜な〜と。ユニークでもあり、
その子どもらしい真、白な心が、愛おしくもあり。

二人共、子どもらしくて、大人になれはなる程、夢は具現化
純心な意見だと 出来る反面、諦めてしまったりと、良くも
思うんです。悪くも忖度してしまいがちではないでしょうか。

サンタクロースの存在も
然りで、いつか分かる「現実」
で、この年代だからこそその
疑問だったり、夢だったり
なんだろうね。

子ども達の
会話から

そんな子ども達の、知識を得ていくステップの1つ。将来
への夢を持つ1つ。どちらも大切にしていってあげたいと、つくづく
思いました。

保育の現場って、日々本当にユニークだったり、かわいかったり、
意見の衝突があたり、和解があたり。一度として同じ場面、時が
なく、私達もその時その時が勝負です。そして、どんな場面でも
子ども達は「精一杯」です。そんな日々を真、直ぐに生きられる
幼児期って、本当に貴重で素敵だな〜と思います。だからこそ、
一人ひとりの子どもに 伸び伸び自分を発揮させてあげたい〜と
思うわけです。

